



～ 補助輪を外して ～

日向商工会議所 会頭 **三輪 純司**



教育とはなんだろう？私は子供達の「自立」だと思っている。GHQ総司令のマッカーサー元帥は「日本人は9歳から成長しない。何も自分で決められない。誰かの指示に従ってばかりだ。」と言っている。子供達には「自ら考え、自ら判断、自ら決定し、自ら行動する」そんな自己決定できる強い子になって欲しい。それには我々大人も「〇〇べき論」の呪縛から脱出しなければならない。大人にとっての「いい子」はろくな人間にならない。だから、自ら楽しさを見いだせる子供たちに、そして、私達も少し早いかも知れないが補助輪を外す勇気を持たなければならない。

奈良の宮大工、小川三夫氏が、以前言っておられたが、「宮大工は一人前になるのに15年以上かかる。しかし、耐えられずやめる若者が大半だ」という。また、宮大工を育てるときに、最初に熱く語るやつ…「日本の建築は僕が背負っていきたい」と言う子供は採らない方が良い。一方「毎日、木に触っているのが楽しい」と言う子を採るべきである。それと「いい子ばかりを採っちゃあかん。そんな子はあと一步という時に踏み込めない。人も木もふぞろいがいい。」と語っている。

商工会議所の使命は地元企業の健全な発展である。そして、子供達が「自分の町は素晴らしく、自分が働き、自分が住む場所はここしかない」と思う街をつくることだ。「**幸せな人が住む町に人はやって来る**」

「14歳のよのなか挑戦」

日向中学校 教務主任 **瀧下 秀樹**



速いスピードで世の中が変化し、自分で考え、主体的に動く力がこれまで以上に必要とされる中、キャリア教育の重要性は高まっています。現在、日向中でも「自立」と「貢献」を本年度の教育目標にして、生徒の主体性を育て、社会に貢献できる生徒の育成を目指しています。コロナ禍で、さまざまな行事や活動が制限を受けていますが、「14歳のよのなか挑戦」は、子どもたちが大きく成長する上で貴重な機会です。体験活動を行うまでには準備や事前学習などをし、体験活動を通して仕事の「楽しさ」や「喜び」、そして「大変さ」など学び、体験が生徒の成長を促します。また、現場での体験がその後の人生に大きく影響を与えることもあります。昨年度は実施できず、生徒の学びの機会が失われ悔しい思いをしました。今年度は、キャリア教育支援センターを中心に地域の事業所の方にご支援いただき計画を進めています。無事に実施でき、生徒の成長につながることを願っています。

「日向のキャリア教育に思う」

大王谷学園 教務主任 **蛭川 隆文**



今夏行われた「東京オリンピック・パラリンピック」では、多くの感動的な場面がありました。中でも学齢期にある若い選手の躍進は世の中を驚かせました。

私たちが日頃接している日向の児童生徒の中にも、今後メダリストや多方面で活躍する者が出てきても不思議なことではありません。なぜか。好結果を生むその背景にはその子どもの力を伸ばし、支え、励ます大人の存在があり、「日向には、それがある。」と感じるからです。

キャリア教育支援センター・各事業所をはじめ、本気で子どもたちのことを想う大人が子どもたちに「働く意義や喜び」を教えてください。地域の方が、貴重な時間を割いて子どもたちを見守ってください。

昨年に引き続き、今年もコロナ禍で本校の「よのなか挑戦」(職場体験)は実施できませんでした。しかし、日向に根付いたキャリア教育に関する灯を絶やさないう、各学校、工夫や発想、情熱でこの状況でも学校挙げて成長していく努力をしています。「日向の大人はみな子どもの先生」に込められた、諸先輩方の想いを忘れぬように。

「社会体験学習について」

東郷学園 教務主任 **四位 久伸**



東郷学園では平成30年度から社会体験学習(当時は職場体験学習)を3日間に延長しています。小集団で事業所に赴き、様々な経験ができる社会体験学習は、生活体験に乏しい現代の中学生にとって、たいへん貴重な「学びの場」となっています。しかし、昨年・今年とコロナ禍の影響で社会体験学習は2年連続で中止となってしまいました。

さて、本校ではGIGAスクール構想のもと、タブレット端末が1人1台ずつ配付され、通信環境も改善されました。これでインターネットやモニター等を介して感覚的に学び取る「間接体験」はやり易くなりました。しかし、生徒にとって一番の学びは「直接体験」であると、私自身は考えています。現在、コロナ禍のなかでもできる体験活動はないかと模索中です。

コロナ禍が収束しましたら、事業所の皆様には社会体験学習へのご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



日向中学校2年生総合的な学習の時間「職業講話」

日向市キャリア教育支援センター
センター長 福島 重義

9月14日(火)の総合的な学習の時間において、2年生全員を対象に「職業講話」が開催されました。これは、社会体験学習「14歳のよのなか挑戦」の事前学習として行われました。

「職業講話」は、6名のよのなか先生にお願いし、製菓業、飲食業、医療系、建設業、情報系保育系の6業種にて、「働くこと」「大人になること」について職業観、生きがい・やりがい、中学生の時に身に付けた置いた方が良くすることなどの講話をして頂きました。2年生全員が6クラスに分かれ2コマの「よのなか教室」を行い、よのなか先生は同じクラスで2コマの「職業講話」を行い、生徒は前半、後半でローテーションを行って学習しました。

今回の「職業講話」は、今後の進路選択に向けての意識を高める、大変貴重な機会となるとともに、「14歳のよのなか挑戦」として、10月に社会体験学習が計画されています。

今回お世話になりました「よのなか先生」

SweetsCafe SEIKADO 緒方 康彦 様
有限会社 天領うどん本店財光寺店 河野 康央 様
カテナ株式会社 黒木 麻莉恵 様
株式会社 内山建設 内山 雅仁 様
認定こども園 伊勢ヶ浜保育園 青木 雅矢 様
誠和会 和田病院 長曾我部 久美 様



SEIKADO 緒方せんせい



天領うどん本店財光寺店 河野せんせい



カテナ株式会社 黒木せんせい



株式会社 内山建設 内山せんせい



伊勢ヶ浜保育園 青木せんせい



誠和会 和田病院 長曾我部せんせい

「14歳のよのなか挑戦」令和3年度 第1回協力事業所の会開催

今年度の第1回会合が去る7月1日(木)に職場体験受入協力事業所25名、大王谷学園・東郷学園・今年から実施する日向中学校等の3校教職員14名、宮崎大学大学院1名、日向高校フロンティア科3年生4名を含め、関係者55名の参加で開催されました。



マルイチ 高木会長あいさつ



会場風景

昨年はコロナ感染症の拡大により各中学校とも実施をあきらめざるを得ない状況でしたが、今年度は3校とも是非実施したいとの意気込みが感じられる会合となりました。

社会体験学習に向けて各事業所と教職員の情報共有、またそれぞれの役割についての理解が深まったとともに、宮崎大学大学

院教育学部からの「キャリア教育の現在」という講演もいただき、連携協定に基づくキャリア教育の活動も実施できました。



宮崎大学 竹内准教授 講演



参加した日向高校フロンティア科3年生

【その後の取組の経過】

キャリア通信第41号発刊9/30現在：日向市が9/12までコロナ感染症対策「まん延防止等重点措置対象地域」に指定されていた経緯もあり、8/31開催の「協力事業所の会」理事会において9月に計画していた大王谷学園・東郷学園側と慎重な協議の結果、諸般の状況を鑑み今年度も中止することで決定、今年度は残念ながら10月に計画していた日向中学校のみ実施することとなりました。

日向中の生徒を計画通り受け入れていただける事業所の方々には併せてご協力をお願いいたします。

Topics 「リラックス・サーフタウン日向」とは



日向市では、人口減少対策として「元気な“日向市”未来創造戦略(日向市総合戦略)」を策定。そのなかの「豊かな自然を生かし新たな人を呼び込む未来創造戦略」の一環として、2016年12月より「リラックス・サーフタウン日向」プロジェクトを始動させました。

全国でも有数のサーフスポットがある日向市に、新しい人を呼び込むことで地域活性化を目指しているほか、サーフィンをしながら働きたい、学びたいという方に情報提供や相談体制・サポート体制を構築し、定住人口の増加を図ることを目的としている取組みです。

そのような環境の中、子供たちに日向市の海の魅力、サーフィンの魅力を感じてもらおうと、細島小学校、日知屋小学校では総合的な学習の時間等を利用して「サーフィン体験よのなか教室」が実施されました。



日知屋小学校(座学の様子)



日知屋小学校(プールでの体験)



細島小学校(開会の様子)



細島小学校(いざ海へ!)